

平成 30 年度特定非営利活動に係る事業報告書

1 事業の成果

支援事業では、入院中と退院後の患児・家族を対象とする支援事業に重点を置き活動した。支援事業では、つらく単調な入院生活を少しでも活気のある明るいものにするため、季節にあわせた行事やアニマルセラピー・人形劇などを行った。季節行事はただ楽しむことだけでなく、管理栄養士の協力を得て食育し、治療の影響で様々な臓器に影響が出る子どもたちが少しでも多くの知識を持ち、退院後の健康管理に生かしていけるよう行った。また、アニマルセラピーや人形劇などに関しても、外からのボランティアの方々へは活動時の挨拶の指導等を行うことで、感謝の気持ちを表現する機会を設け、子どもたちの社会性の発達に資することができた。

また、小児がん経験者退院後の患児やその家族の交流を目的とした屋外イベントである野球観戦や、清里キープ自然学校を貸し切って J&M キャンプ 2018 を開催した。このほか、似たような経験をした者同士が病気について気兼ねなく話せるきっかけづくりの場として、小児がん経験者の集いや、小児がん経験者やその家族も気軽に立ち寄って日ごろの不安、周囲への気疲れなど肩の荷を下ろす場となることを願って開設したサロン「いっぴく亭」を、千葉県こども病院周産期病棟 1 階の会議室を借りて継続実施した。

啓発事業では、総会後の講演会で医師による「小児がん経験者と易疲労感～晩期内分泌合併症を中心として」、小児がん経験者による「私の小児がんと社会的自立」の講演をいただいた。

また、京都で行われた国際小児がん学会（SIOP）と、同時開催された世界中の小児がん患児・家族、支援団体が集う「国際小児がんの会（CCI）」に参加した。SIOP では各国の医療者が参加する、患者・家族とのパートナーシップに目を向けたセッションに登壇した。会場内にブースを設置し、がんの子どもを守る会のスタッフと一緒に日本の家族会の活動を広報した。ブース内で、千葉県こども病院の行事やアニマルセラピーの様子をプロジェクターで投影し、治療中の子ども達やそのご家族と協力して手作りした 150 組の鶴のピアスをミルフィーユのアドレスカードとともに記念品として、ブースを訪れてくださった方にプレゼントすることができた。

活動の内容は随時ホームページに掲載し、会員だけでなく広く社会の皆様への情報提供に努め、会報誌はミルフィーユ vol. 8 を発行することができた。

その他、千葉県こども病院と千葉大学医学部付属病院小児科、成田赤十字病院、そして千葉県がんセンターでの犬とのふれあい活動のボランティア団体 C A P P への感謝として毎年カレンダー製作・贈呈しているが、今年度も千葉県こども病院の子どもたちと袖ヶ浦特別支援学校校内教室の協力を得て、感謝の気持ちを表すことができた。

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額(千円)	
(1) 支援事業	入院中の患児とその家族への応援事業	院内イベント	月3~6回	・千葉県こども病院 ・千葉大学医学部附属病院小児科 ・成田赤十字病院小児科	2~4名	30名	
	退院後の患児・家族の交流を目的としたイベントの開催	野球観戦	H30. 7. 16 (月)	ZOZOマリスタジアム	5名	10名	
		キャンプ	H30. 9. 22 (土) ~24 (月)	山梨県 清里 キープ自然学校	39名	52名	
		はげつり	H30. 10. 6 (土) 天候不良で中止	千葉市 花見川河川敷	10名	—	
	経験者交流会		H30. 11. 23 (金)	千葉市中央区	3名	10名	
	いっぷく亭		毎週火曜	千葉県こども病院 周産期棟 1階	2名	110名	
(2) 啓発事業	患児家族向け講演会		H30. 6. 3 (日)	淑徳大学 (千葉市中央区)	10名	40名	
	国際小児がん学会(SIOP) 国際小児がんの会(CCI)		H30. 11. 15 (木) ~18 (日)	京都	10名	30名	
	支援自販機		随時	千葉県内		—	
(3) 広報事業	ホームページの運営		随時	社員自宅	4名	不特定多数	
(4) 会報誌発行	会員対象の会報の印刷、郵送		H30. 4. 28 (土)	社員自宅および 市内公民館	10名	会員約200名 ・各施設での 外来通院患者 ・家族150名	